

和音

京都大原記念病院グループ

KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK

No.230

「和音」編集室

京都大原記念病院グループ

〒601-1246

京都市左京区大原井出町

164番地

TEL (075) 744-3123

FAX (075) 744-5012

Mail kyotoohara-hp@kyotoohara-gr.jp

https://www.kyotoohara.or.jp

2018年

11月

NOVEMBER

心臓の機能 学び深める

京都近衛リハ病院

京大循環器内科と勉強会

京都大原記念病院グループが4月に開設した新病院・京都近衛リハビリテーション病院は、8月31日(金)に京都大学大学院医学研究科循環器内科学(以下、京大循環器内科)との合同勉強会 Kyoto Expert Meeting 2018 を初めて開催しました。

勉強会は、同病院が至近にある京大との連携や情報交換を深める一環として開



心房細動について語る吉澤医師

かれました。京大循環器内科の加藤貴雄医師、同じく吉澤尚志医師を招き講演いただきました。同グループの医師、看護師、療法士ら約70名が聴講。座長を務めた同病院の岡伸幸院長はあいさつで

「(講演内容は)当院の入院患者に多い脳卒中とは切り離せない疾患」と、勉強会の意義を語りました。

第一講演は吉澤医師による「心房細動・冠動脈ステント留置患者における抗血栓療法～抗血栓薬 最近の話題～」と題した心房細動についての話でした。心房細動とは心房全体が小刻みに震え、正しい収縮と拡張ができなくなる不整脈で

す。血流がよどみ血栓ができると、時に脳梗塞(心原性脳梗塞栓症)の原因となります。吉澤医師は、「高齢化に伴って有病率は高まります。また肥満、血圧コントロール、高尿酸血症などの生活習慣も影響を及ぼします。有病者の脳梗塞発症リスクは5倍に高まります」とし、「なるべく早期に発見し、より適切な抗凝固療法を実施していくことが大切」と考え方を示しました。

また、京大循環器内科ではカテーテルアブレーション治療の実施症例数が



京都近衛リハビリテーション病院で開かれた初の合同勉強会



慢性心不全患者の最新の知見を紹介する加藤医師

2017年は全国17位となり通算2000例を達成したことや、この治療により脳梗塞予防、心不全の進展抑制につながれないか研究に邁進したいとの展望が示されました。

次の加藤医師の講演では「慢性心不全合併患者における病棟管理のポイント」



京都大原記念病院自家菜園にて

モロッコ豆 煮物や揚げ物に最適

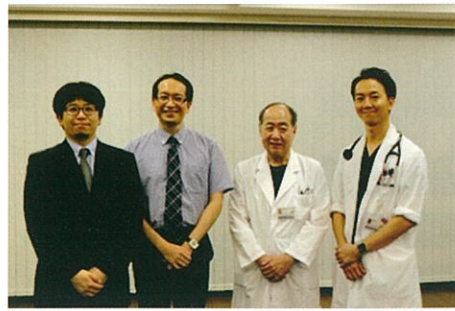
大原の四季

スーパー等でよく販売されているモロッコインゲン。独特な平たい形が特徴ですが、実は家庭菜園でも比較的簡単に栽培でき、煮物や揚げ物にするととても美味しい豆の一つです。京都大原記念病院グループの農園でも約2坪の小ぶりの花=写真=をつけ始めました。11月には収穫が全盛期となります。(総務部 榎並宏之)



ト」と題し慢性心不全について、最新の知見の紹介がありました。慢性心不全入院患者のADL(日常生活動作)低下による入院の長期化、高い再入院率などが社会問題化しています。今年度、地域医療計画が見直され、心血管疾患の回復期、慢性期の医療体制の構築や、慢性心不全の再入院予防の観点も政策的に盛り込まれました。各ステージ連携のもと、在宅生活へ繋げていくことがより一層求められますが、具体的な道筋は示されず循環器内科医の悩みの種ともなっています。

再発の原因は、塩分制限、感染症、過労、治療薬服用の不徹底、ストレスと病気



講師の吉澤、加藤両医師と並ぶ京都近衛リハビリテーション病院の岡伸幸院長と児玉直俊院長補佐(左から)

以外のことも多くあります。良い状態を維持し、増悪時の適切な対処をするマネジメントが大切となります。最近、血圧、体重、脈拍、体温などの情報が、自宅等の患者から医療従事者に送られるテレモニタリ

ングシステムの導入により心不全患者の転帰改善につながったと注目されています。このすばらしい効果は実は看護師から週1回電話を入れる効果と同程度であり、医療機関のコンタクト、現場での指導が重要と考えているとのことでした。

参加者からは「回復期入院患者にも心不全患者は多く、適切な負荷量の考え方について教えてほしい」といった質問があり「詳細は主治医の見解となることは前提に、シンプルであるが、体重を毎日測り、また普段から動かし続けておくべきと考えられる。それから症状が悪くなるようであれば負荷量の調整は必要となるだろう。」との回答がありました。

心に響く音色 癒されました



ライフピア八瀬大原I番館では9月16日、ご入居者の皆様へ感謝の気持ちを込めて敬老会を開催しました。

午前は事務長&看護師という珍コンビが髭ダンスを披露し、会場は笑いが絶えないとても和やかなムードに。中でも事務長がアイスピックをくわえ、それをめがけてオレンジを投げる演芸では、入居者だけでなく、職員が投げる場面もあり、投げたオレンジがアイスピックに刺さらず事務長の鼻に当たった時は笑いがMAXになりました。

昼食は「うなぎづくしのお膳」をお出ししました。「こんなごちそうが食べられて幸せです」と普段食事量の少ない方も自ら箸を進められる程好評でした。午後からは職員の家族によるバイオリン演奏、フラダンス、タヒチアンダンスショー、ギター&ウクレレ演奏のイベントを実施しました。小学5年生が親子で演奏するバイオリンは心に響く音色で「とっても良かったです」「癒されました」という声があちらこちらから聞こえてきました。

フラダンスとタヒチアンダンスショーでは、突然踊り出される方や、フラダンスに魅了されて涙を流される方がおられ



フラダンスのダンサーと握手するご利用者

るなど、大変有意義な時間となりました。中でも普段は集団活動が嫌いなご入居者が、イベント中ずっと笑顔で観賞され、終了後に自ら子供達に握手をされていたのが印象的で、あらためて音楽と踊りの力の素晴らしさを実感しました。

翌日もご入居者、ご家族より「本当に



心にしみた親子でのバイオリン演奏



この日のために用意された「うなぎづくしのお膳」



事務長と看護師がコンビで髭ダンス

楽しい一日でした」「またやってください」等々の声をたくさんいただき職員一同感謝しています。これからも、ご入居者の心に響くイベントを企画していきたいと思えます。

(ライフピア八瀬大原I番館 高木哲也)

3チームが 自衛消防隊訓練大会

京都市左京区内の企業、大学、医療・福祉施設などの自衛消防隊が日ごろの訓練の成果を競う「第46回左京自衛消防隊訓練大会」が9月12日、左京区の宝ヶ池公園で行われ、京都大原記念病院グループから3チームが出場。号令に合わせて所定の的に放水するなど、きびきびした動きを繰り広げました。

大会は、消火器操法、2号消火栓操法、屋内消火栓操法、屋外消火栓操法の4部門で実施、計29チームが参加しました。京都大原記念病院グループからは屋内消火栓操法に京都大原記念病院(蔭西聡志・花岡涼平・西村琢磨=敬称略、以下同)、2号消火栓操法に大原ホーム(服部駿一・湊愛花)、消火器操法に博寿苑・おおはら雅の郷・やすらぎの家合同チーム(尾崎貴幸・佐伯竜紀・小川貴之)の3チームが出場、うち合同チームと京都大原記念病院チームが優秀隊表彰に輝きました。

職員の熱意、広がる笑顔

各施設で夏祭り



8月下旬から9月にかけて、京都大原記念病院グループの高齢者施設では夏祭りが催されました。職員が知恵を絞った出し物や模擬店では、ご入居者やご利用者らの笑顔があふれました。



職員バンドの演奏で盛り上がった優雅祭

味しかったです。たまにはいいですね」と、ご満足のお言葉を頂戴しました。

優雅祭はご入居者、ご家族、職員が共に楽しむことのできるお祭りです。祭の後もご入所者やご家族、職員の心を繋ぐ架け橋となっています。

(おおはら雅の郷 澤田卓)

バンド演奏とピアノ

おおはら雅の郷 優雅祭

毎年恒例の優雅祭が9月15日に開催されました。今回で17回目、優美なお祭りとなりました。

今回のメインイベントは各階同時に行われた演奏会でした。一つ目は職員バンドによる演奏。キーボード・ギター・ベース・ウクレレで懐かしの名曲を披露しました。お聞きになったご入居者からは自然と歌声が聞こえてきました。普段は歌を唄わない方が、自分から歌を口ずさんでいる姿には感動しました。

2つ目のピアノ演奏は、プロにお願いしました。やはり職員バンドとは一味違った音色に聞き入っておられました。ご入居者の中には、昔から音楽に携わっていた方々もおられます。そんな方々にもご満足いただけた時間になったのではと思います。

演奏会とは別に行われていた屋台で



人気を集めた風船釣り

は、水風船釣り、うちわ作り、写真撮影など身体を動かしながら楽しむ催しがありました。参加されている皆様の集中力には、驚きを感じる瞬間があり、表情も生き生きとされていました。記念のうちわは、シールの貼る位置や色合いなど、随所に個々のこだわりがみられる特別な物となりました。

今年の展示物は、日頃皆様が熱心に参加されている臨床美術と手芸教室の作品をご覧くださいました。

ご入居者のもう一つのお楽しみは、屋

台でのお食事です。フランクフルト、フライドポテト、ノンアルコールビール、プリンなど皆様が昔から慣れ親しんだ物から新しい物までを取り揃え、特別弁当も3種類用意いたしました。ご家族から「とても美

和太鼓やよさこい

博寿苑感謝祭

「ご利用者とご家族に感謝の気持ちをこめておもてなしをする」をテーマに9月1日、博寿苑入所・通所共同で博寿苑感謝



博寿苑を練り歩いた職員の神輿

祭を開催しました。ご利用者に加え多くのご家族に参加していただきました。

一階では、かき氷やたこ焼きの販売を行い、ゲームブースでは輪投げやご利用者手作りのスマートボールが設置され、来場された方々も楽しまれた様子でした。

また出し物として、職員による神輿巡業やハンドベルの演奏会、ボランティアによる和太鼓とよさこいが披露されました。知っている曲が流れると口ずさんだり、手拍子やボランティアの方とハイタッチをしたり、中には感動し涙ぐむご利用者の姿もあり、普段とは違う一面を見ることが出来ました。

ご家族へのアンケートでは大満足の評価を多くいただき、職員の励みになりました。来年度もご利用者・ご家族に喜ばれる感謝祭を企画し、楽しい時間を過ごしていただきたいと思います。

(博寿苑 新垣俊吾)



趣向を凝らした出し物は好評を博した

もう、ご確認いただきましたか？
京都大原記念病院グループ公式Facebook

グループの取り組みや、お役立ち情報など
日々、更新中！ ぜひこちらをご覧ください！

